

都市再生整備計画 事後評価シート(案)
藤沢駅周辺地区(第2期)

令和8年3月

神奈川県藤沢市




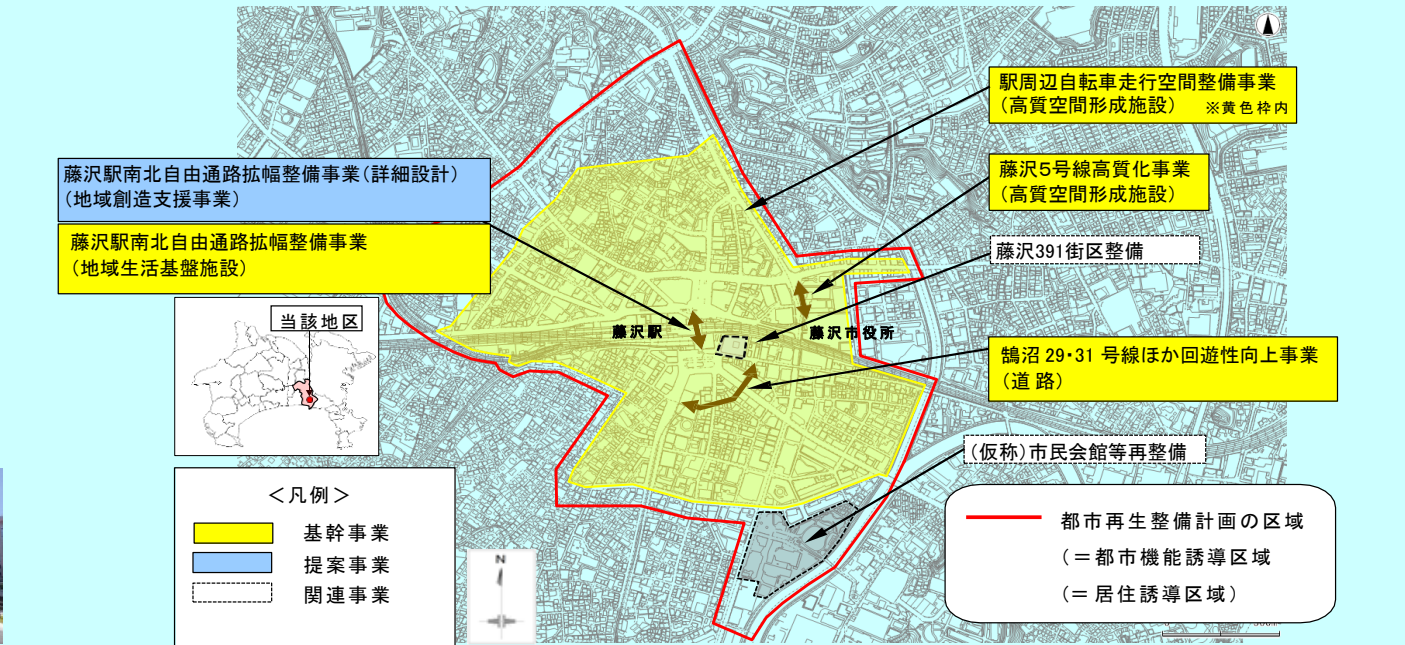
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	藤沢駅周辺地区(第2期)			面積	100.9ha		
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,130.6	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	【道路】藤沢駅北口南北線回遊性向上事業、鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業 【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備事業 【高質空間形成施設】駅周辺自転車走行空間整備事業									
			提案事業	【地域創造支援事業】藤沢駅南北自由通路									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	【道路】藤沢駅北口南北線回遊性向上事業		事業スケジュール変更のため、計画期間内の事業実施が困難となったため。次期計画での実施を検討。			指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。				
			提案事業	【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備事業		事業スケジュール変更のため、計画期間内の事業実施が困難となったため。次期計画での実施を検討。			当該事業を対象としていた指標「放置自転車台数(台/年)」を削除。				
新たに追加した事業		基幹事業	【地域生活基盤施設】藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業		詳細設計(提案事業)が完了し、工事(基幹事業)へ着手していくため。			指標1および指標3に関連するため、数値目標の変更を行った。					
		提案事業	【高質空間形成施設】藤沢5号線高質化事業		関連する工事の施行時期が確定したため。			指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。					
交付期間の変更		当初	令和3年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	滞留空間の魅力度	%	12.8	R2※	19	R7	モニタリング	評価値	○	あり	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能が向上され、整備後の滞留関連施設を「魅力的」と感じている人が増加した。	-
									52.5		なし		
	指標2	イベント開催日数	日/年	20	R2※	40	R7		87	○	あり	整備が完了した施設等を利用して、地域が主体となったエリアマネジメント組織等が様々なイベントを実施していることにより、イベント開催日数が目標を達成し、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出に寄与している。	-
											なし		
指標3	歩行者空間の快適度	%	20.4	R2※	30	R7		62.3	○	あり	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や快適に歩ける空間が創出され、整備後の自由通路等の歩行に際して「快適」と感じている人が増加した。	-	
										なし			
指標4	自転車の歩行阻害割合	%	逆走割合28.4 歩道走行割合16.8	R元	逆走割合25.6 歩道走行割合15.1	R7		逆走割合15.8 歩道走行割合11.5	○	あり	駅周辺道路において、自転車走行空間の整備、回遊性向上や高質化に向けた事業を実施したことにより、快適に歩ける空間が創出され、自転車の歩行阻害割合が減少した。	-	
										なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	自転車交通事故件数	件/年	18	R2※	/	/	モニタリング	評価値	/	/	駅周辺道路において、自転車走行空間の整備、回遊性向上や高質化に向けた事業を実施したことにより、快適に歩ける空間や自転車走行空間が創出され、自転車の事故件数が減少した。	-
									6				
その他の数値指標2													
その他の数値指標3													

4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から小田急線の改札が橋上化され乗り換え等が便利になった、歩行エリアが広がったことや、JRから小田急に乗り換える人と南北の通行者との動線の交差が一部解消されたことで、歩きやすくなったとの意見があり、利便性・安全性の向上につながった。 ・南北自由通路が明るく広くなり見通しも良くなった、新たな箇所は 雰囲気の良い素材(床・壁等)を使用し、上方の空間的広がりも良いと感じたとの意見があり、自由通路のデザイン検討や空間の広がり等においても効果が発現している。 			
5) 実施過程の評価	モニタリング	実施内容 —	実施状況 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	今後の対応方針等 —
	官民連携による 取組	【藤沢駅前街区エリアデザイン会議】 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備や今後の南口駅前広場の再整備等の実施にあたり、駅北口を含めたエリア全体を捉えたデザインについて検討することを目的とし設置(R4年度～R5年度) ・「藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト」を作成(令和6年3月) ・コンセプトを踏まえ、藤沢駅南北自由通路デザインバースを作成	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● デザインコンセプトは、公共施設を整備するときのデザインの指針とするとともに、民間施設の建て替えのときなどには、市民、事業者の方々が魅力的な駅前について考えるきっかけとなるよう活用していく。 デザインバースは、実際に工事を進める際の参考や完成イメージとして市民等への周知に活用している。
	持続的なまちづくり 体制の構築	【一般社団法人 藤沢駅周辺地区エリアマネジメント】 ・藤沢駅周辺地区のにぎわいの創出と再活性化を目指し活動(令和元年.12月～) ・藤沢市藤沢駅前広場の指定管理者(期間:令和3年度～令和5年度、令和6年度～令和10年度)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● 持続的にエリアマネジメントを推進できるよう、公共空間管理と合わせて指定管理者が主体的ににぎわい創出に向けた活動をするともに、市もアドバイスなど必要な支援をしていく。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行したため、従前値は外出等が制限されていた時期に計測された値となる。

様式2-2 地区の概要

藤沢駅周辺地区(第2期)(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 藤沢の玄関口にふさわしい、にぎわいや交流を創出し、周辺地域へつなぐ駅前づくり 目標①: 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出 目標②: 交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出	滞留空間の魅力度	単位: %	12.8	R2	19	R7	52.5	R7
	イベント開催日数	単位: 日/年	20.0	R2	40	R7	87	R7
	歩行者空間の快適度	単位: %	20.4	R2	30	R7	62.3	R7
	自転車の歩行阻害割合	単位: %	逆走割合28.4 歩道走行割合16.8	R元	逆走割合25.6 歩道走行割合15.1	R7	逆走割合15.8 歩道走行割合11.5	R7
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>■ 鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業</p>  <p>整備前 整備後</p> <p>■ 藤沢駅周辺自転車走行空間整備事業</p>  <p>整備前 整備後</p> <p>■ 藤沢5号線高質化事業</p>  <p>整備前 整備後</p> </div> <div style="width: 65%;">  <p>藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業(詳細設計) (地域創造支援事業)</p> <p>藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業 (地域生活基盤施設)</p> <p>藤沢5号線高質化事業 (高質空間形成施設)</p> <p>藤沢391街区整備</p> <p>鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業 (道路)</p> <p>(仮称)市民会館等再整備</p> <p>都市再生整備計画の区域 (= 都市機能誘導区域 = 居住誘導区域)</p> <p><凡例> 基幹事業 提案事業 関連事業</p> </div> </div>								
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や市役所周辺の道路の高質化により拠点性が向上するとともに、駅周辺でのイベント開催による交流の場の創出により、駅を中心としたまちの拠点としての機能が強化されたが、自由通路や更新が必要な駅南口の施設整備を進め、まち全体としての求心力を高める必要がある。また、イベント時だけでなく、日常的な交流・活動の場づくりが必要である。 ・駅北口においては、地域が主体となったイベントの開催によるまちの活力向上が図られたが、駅北口だけでなく、南口や周辺地域の施設等も有効活用し、周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上が必要である。 ・藤沢駅南北自由通路の拡幅や駅改良事業により駅の利便性や安全性が向上するとともに、自転車ネットワークの整備より、安全な回遊ネットワーク形成が図られているが、南口駅前広場等において、バリアフリー化による利便性や安全性の向上が必要である。 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を中心としたまちの拠点性強化とにぎわいの創出に向け、イベントの周知や実施等により、駅周辺における持続的な交流・活動の場づくりを行うとともに、道路空間や公共施設等を活用した市民等の交流・活動機会を日常的に創出していく。 ・周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上に向け、周辺店舗や地域団体・企業等と連携した体制・仕組みづくりを行い、駅利用者だけでなく、市民等にとっても魅力的で利用しやすくなる駅及び駅周辺の環境整備を行う。 ・駅や駅周辺の利便性や回遊性、安全性の向上に向け、交通結節点として駅南北間の連携強化や良好な自転車環境の維持・向上を図るほか、駅南口に残されている老朽化した都市施設等の機能更新を行う。 							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9— 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		放置自転車台数(台/年)	削除	指標対象の事業を削除したため。
C. 目標値	●		滞留空間の魅力度(%) : 25% 歩行者空間の快適度(%) : 40%	滞留空間の魅力度(%) : 19% 歩行者空間の快適度(%) : 30%	計画期間内での事業進捗に併せて目標値を再設定したため。
D. その他(交付対象事業費)	●		1171百万円	2130.6百万円	基幹事業や提案事業の追加・削除や事業費の増減が生じたため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	藤沢駅北口南北線回遊性向上事業	273.0	L=50m, W=9m	—	—	事業スケジュール変更のため、事業の削除を行い、次期計画以降での実施を検討。	指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。	—	—
道路	鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業	213.0	L=270m, W=11m	92.7	L=260m, W=11m	事業完了に伴い実績値を反映するため、事業費と施工延長を変更。	指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。	●	
地域生活基盤施設	自転車駐輪場整備事業	424.0	652台	—	—	事業スケジュール変更のため、事業の削除を行い、次期計画以降での実施を検討。	当該事業を対象としていた指標「放置自転車台数(台/年)」を削除。	—	—
地域生活基盤施設	藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業	—	—	1,931.8	L=80m, W=16m	詳細設計(提案事業)が完了し、工事(基幹事業)へ着手するため、事業を追加。	指標1および指標3に関連するため、数値目標の変更を行った。	●	
高質空間形成施設	駅周辺自転車走行空間整備事業	27.0	L=6,500m	17.9	L=6,800m	事業完了に伴い実績値を反映するため、事業費と施工延長を変更。	指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。	●	
高質空間形成施設	藤沢5号線高質化事業	—	—	24.0	L=95m	関連する工事の施行時期が確定したため事業を追加。	指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	藤沢駅南北自由通路	234.0	L=80m, W=16m	64.2	—	工事着手に伴い基幹事業へ移行したため、詳細設計以外の事業費を削除。	指標1および指標3に関連するため、数値目標の変更を行った。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
藤沢391街区整備		—	—	—	—	—	事業内容を精査し、補助金活用を踏まえた、事業化を検討中。		
(仮称)市民会館等再整備		—	—	—	—	—	次期計画で提案・基幹事業とするため事業化を検討中。		
藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業(工事)		—	254.0	—	R5~R16	—	R4年度に基幹事業へ移行。工事施工中。		
藤沢駅南口公衆トイレ高質化事業		—	—	99.0	R8~R9	R8~R9	関連する自由通路工事が施行中。次期計画で基幹事業とする予定。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価	見込み	達成度	達成度	あり	なし			
指標1	滞留空間の魅力度	%	-	-	12.8	R2	19	R7	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定見込み ●	52.5	事後評価	○			
指標2	イベント開催日数	日/年	-	-	20.0	R2	40	R7	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定見込み ●	87	事後評価	○			
指標3	歩行者空間の快適度	%	-	-	20.4	R2	30	R7	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定見込み ●	62.3	事後評価	○			
指標4	自転車の歩行阻害割合	%	-	-	逆走割合28.4 歩道走行割合16.8	R元	逆走割合25.6 歩道走行割合15.1	R7	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定見込み ●	逆走割合15.8 歩道走行割合11.5	事後評価	○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能が向上され、整備後の滞留関連施設を「魅力的」と感じている人が増加したため、目標達成度を○とした。	
指標2	整備した施設等を利用し、地域が主体となったエリアマネジメント組織等が様々なイベントを実施していることにより、イベント開催日数が増加し、魅力ある滞留空間・交流拠点が創出され、目標達成度を○とした。	
指標3	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や快適に歩ける空間が創出され、整備後の自由通路等の歩行に際して「快適」と感じている人が増加したため、目標達成度を○とした。	
指標4	駅周辺道路の整備事業を実施したことにより、快適に歩ける空間が創出され、自転車の歩行阻害割合が減少したため、目標達成度を○とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度				
その他の数値指標1	自転車交通事故件数	件/年			18	R2	モニタリング	自転車走行空間整備事業や回遊性向上事業等が、自転車事故件数の減少にもつながり、整備に伴う効果として、小目標②交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出を表しているため	
							事後評価		
その他の数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・利用者から小田急線の改札が橋上化され乗り換え等が便利になった、歩行エリアが広がったことや、JRから小田急に乗り換える人と南北の通行者との動線の交差が一部解消されたことで、歩きやすくなったとの意見があり、利便性・安全性の向上につながった。
 ・南北自由通路が明るく広くなり見通しも良くなった、新たな箇所は 雰囲気の良い素材(床・壁等)を使用し、上方の空間的広がりも良いと感じたとの意見があり、自由通路のデザイン検討や空間の広がり等においても効果が発現している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した — 予定はなかったが実施した — 予定したが実施できなかった (理由) —	—	—

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
【藤沢駅前街区エリアデザイン会議】 自由通路拡幅整備や今後の南口駅前広場の再整備等の実施にあたり、「藤沢駅前街区エリアデザイン会議」を設置し、駅北口を含めたエリア全体を捉えたデザインについて検討した。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】 計7回 【実施時期】 令和4年度～令和5年度 【構成員】 学識経験者3名、エリアマネジメント団体、鉄道事業者及び藤沢市の職員 【実施結果】 エリアデザイン会議では、藤沢駅前街区のデザインコンセプト並びに藤沢駅南北自由通路のデザインにあたり、藤沢駅前らしさの整理や空間の設えと人の活動の両面から検討した。令和6年3月に「藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト」を策定し、これ踏まえ、藤沢駅南北自由通路デザインパースを作成した。	デザインコンセプトは、公共施設を整備するときのデザインの指針とするとともに、民間施設の建て替えのときなどには、市民や事業者の方々が魅力的な駅前について考えるきっかけとなるよう活用していく。 デザインパースは、実際に工事を進める際の参考や完成イメージとして市民等への周知に活用している。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
【一般社団法人 藤沢駅周辺地区エリアマネジメント】 都市再生整備計画事業により整備した北口デッキ及び特殊街路において、藤沢駅周辺地区の魅力発信及び藤沢駅前広場の付加価値を高めることを目的とした広場条例を制定。その広場において、「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を指定管理者として選定した。(期間:令和3年度～令和5年度、令和6年度～令和10年度)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	H28年からエリアマネジメントに関する勉強会を実施し、令和元年6月には設立準備会に発展した。組織設立に向けた検討を進めると共に、公共空間活用社会実験を実施し、令和元年12月に「一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント」を上げた。	【組織名】 一般社団法人藤沢駅周辺地区エリアマネジメント 【概要】 藤沢駅周辺地区において、にぎわい創出や交流の促進等、公共空間を活用したまちづくり活動を行い、この地域の価値を高め、多様な人々がひきつけられる場を目指し、まちの活性化に寄与することを目的に設立。 【構成員】 地元経済団体、鉄道事業者、地元事業者、金融機関など正会員7者、準会員2者	持続的にエリアマネジメントを推進できるように、公共空間管理と合わせて指定管理者が主体的ににぎわい創出に向けた活動をするともに、市もアドバイスなど必要な支援をしていく。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集中支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行政経営室長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路下水道総務課長、事業実施する課等の長(藤沢駅周辺地区整備担当参事)	令和7年11月4日	計画建築部建設総務課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		滞留空間の魅力度		イベント開催日数		歩行者空間の快適度		自転車の歩行阻害割合	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業)	—	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能向上、快適に歩ける空間が創出され、滞留空間の魅力度向上に寄与している。	○	整備が完了した施設等を利用し、地域が主体となったエリアマネジメント組織等が様々なイベントを実施していることにより、イベント開催日数が増加し、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出に寄与している。	—	藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口(一部)の橋上化が完了したことにより、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能向上、快適に歩ける空間が創出され、歩行者空間の快適度向上に寄与している。	◎	駅周辺道路において、自転車走行空間の整備、回遊性向上や高質化に向けた事業を実施したことにより、快適に歩ける空間が創出され、自転車の歩行阻害割合減少に寄与している。
	地域生活基盤施設(藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業)	◎		○		◎		—	
	高質空間形成施設(駅周辺自転車走行空間整備事業)	—		○		—		◎	
	高質空間形成施設(藤沢5号線高質化事業)	—		○		—		○	
提案事業	地域創造支援事業(藤沢駅南北自由通路)	◎		○		◎		—	
関連事業	藤沢391街区整備	—		—		—		—	
	(仮称)市民会館等再整備	—		—		—		—	
	藤沢駅南口公衆トイレ高質化事業	—		—		—		—	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
	事業完了後の利用状況を継続的に確認し、適切な維持管理や利活用を促し、魅力的な滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能向上等に努め、魅力度向上を図る。	広場指定管理者制度を活用する等、整備した施設の適切な管理を行うとともに、エリアマネジメント組織の担い手確保や地域団体等と連携した活用・仕組みづくり等を推進し、更なるにぎわいの創出を図る。	事業完了後の利用状況を継続的に確認し、適切な維持管理を行い、魅力ある滞留空間や交通結節点の機能向上を図るとともに、快適に歩ける空間の創出に努める。	整備した道路について適切な維持管理を行い、交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出に努め、更なる自転車の歩行阻害割合減少を図る。

指標の種類		その他指標1							
指標名		自転車交通事故件数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(鶴沼29・31号線ほか回遊性向上事業)	○	駅周辺道路において、自転車走行空間の整備、回遊性向上や高質化に向けた事業を実施したことにより、快適に歩ける空間や自転車走行空間が創出され、自転車事故件数の減少に寄与している。						
	地域生活基盤施設(藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業)	—							
	高質空間形成施設(駅周辺自転車走行空間整備事業)	◎							
	高質空間形成施設(藤沢5号線高質化事業)	—							
提案事業	地域創造支援事業(藤沢駅南北自由通路)	—							
関連事業	藤沢391街区整備	—							
	(仮称)市民会館等再整備	—							
	藤沢駅南口公衆トイレ高質化事業	—							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備した道路について適切な維持管理を行い、交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出に努め、自転車事故件数の減少を図る。				
-------	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集中央支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行政経営室長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路下水道総務課長、事業実施する課等の長(藤沢駅周辺地区整備担当参事)	令和7年11月4日	計画建築部建設総務課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
「湘南の玄関口」としての差別化に向けた街の求心力の向上や交流の核づくり	・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅整備や行政サービス機能の中心である市役所周辺の道路の高質化により、利便性や快適性が向上するとともに、駅周辺でのイベント開催により交流の場が創出されたことで、駅を中心としたまちの拠点としての機能が強化された。	・自由通路や駅南口において更新が必要な施設が残されており、継続的なまちづくりにより、まち全体としての求心力を高める必要がある。 ・イベント時だけでなく、日常的な交流・活動の場づくりが必要である。	—
駅から周辺へのにぎわい波及による周辺地域全体での活力向上	・駅北口において、地域が主体となったイベントを開催したことにより、にぎわいや交流の場が生まれ、まちの活力向上に寄与した。	・駅北口だけでなく、南口や周辺地域の施設等も有効活用し、周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上が必要である。	
交通結節点としての利便性や回遊性、安全性の向上	・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や小田急線改札口の橋上化事業、ユニバーサルデザインの導入により、駅の利便性や安全性の向上に寄与している。 ・自転車ネットワークの整備により、安全に利用できる交通環境が形成され、回遊性の向上に寄与している。	・南口駅前広場や南口周辺等において、バリアフリー化による利便性や安全性の向上が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・駅を中心としたまちの拠点機能の強化とにぎわいの創出	・駅周辺における継続的な交流・活動の場づくり	・市民ニーズ等の把握 ・イベント実施等の周知活動 ・エリアマネジメント組織における担い手の確保
	・交通結節点としての利便性や回遊性、安全性の向上	・駅南北間の連携強化 ・良好な自転車利用環境の維持・向上	・南北の回遊性向上に向けた藤沢駅南北自由通路の整備 ・藤沢駅周辺への自転車駐車場の整備

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・日常的な交流・活動の場づくり	・道路空間や公共施設等を活用した市民等の交流・活動機会の創出	・生活・文化拠点形成に向けた公共施設(藤沢市民会館)の再整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	・駅利用者だけでなく、市民等にとって魅力的で利用しやすくなる駅及び駅周辺の環境整備 ・老朽化した都市施設等の機能更新	・市民等の快適な利用に向けた藤沢駅南北自由通路等の整備及び適切な維持管理 ・周辺店舗や地域団体、企業等との連携による活用に向けた体制・仕組みづくり ・藤沢駅南口公衆トイレの整備 ・藤沢駅南口エスカレーターの整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	第1期より実施している事業効果の計測が可能な指標を設定したことで、継続して事業効果を計測することができた。	長期にわたる事業については、前期と同様の指標を用いて計測することで、継続的に事業効果を把握できることから、事業期間を考慮した指標設定を行う。
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	アンケート実施の際に、第1期及び第2期の事業を紹介するパネルを掲示し説明を行うことで、これまでの成果や今後の事業内容について市民や利用者等に周知することができた。	これまでの成果や今後の取り組み内容等を利用者へ説明・周知する場を設けることは、事業等についての理解を深めてもらうためにも有効であるため、アンケート等の機会を利用し今後も積極的に実施する。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	アンケートの実施により、対象事業に限らず様々な意見を把握することができ、今後のまちづくりの参考となる意見を集めることができた。	意見の内容について庁内関係各課へ周知を行うとともに、次期計画や様々な事業(取組み)への反映を検討し、市民ニーズを踏まえたまちづくりを継続的に推進する。
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

藤沢駅周辺地区:都市再生整備計画(第3期)を予定
 [時期]令和8年度-令和12年度
 [事業]都市構造再編集集中支援事業

村岡新駅周辺地区:都市再生整備計画の事後評価を予定
 [時期]令和8年度
 [事業]都市構造再編集集中支援事業、まちなかウォークラブル推進事業

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和7年12月3日(水)～ 令和8年1月5日(月)	令和7年12月3日(水)～ 令和8年1月5日(月)	広報誌への掲載により周知し、所管課窓口や市民センター等での閲覧、市ホームページでの掲載により公表する。	計画建築部建設総務課 都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に市のホームページ及び所管課窓口で原案を公表している旨を掲載	令和7年11月25日(火)発行 広報ふじさわ2025年11月25日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	所管課窓口や市民センター等での閲覧	令和7年12月3日(水)～ 令和8年1月5日(月)	令和7年12月3日(水)～ 令和8年1月5日(月)		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	木下瑞夫(明星大学 名誉教授)	令和8年3月4日	計画建築部建設総務課、都市整備部藤沢駅周辺地区整備担当、道路下水道部道路整備課	藤沢市都市再生整備計画等事後評価委員会設置要綱	藤沢市都市再生整備計画等事後評価委員会
その他の委員	川崎あや(一般社団法人インクルージョンネットかながわ 代表理事) 大場智子(税理士、行政書士) 三ツ橋利和(藤沢商工会議所 専務理事)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	実施計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。 ・アンケート設計では、自由意見欄を設けたとの事だが、今後のまちづくりのためにも選択理由も調査できるとよいと意見があった。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1[滞留空間の魅力度]および指標3[歩行者空間の快適度]について、目標は達成しているものの評価が低いと意見があったが、事業が途中であることや今後の期待感からの結果であると確認、共有した。 ・指標2[イベント開催日数]について、従前値がコロナ禍の数値であることを追記すべきと指摘があったため、様式2-1に注釈を追記した。評価値が高い値であったが、従前値がコロナ禍であったこと、またエリアマネジメント活動の成果も含まれているということで理解を得た。 ・指標4[自転車の歩行阻害割合]やその他指標1[自転車交通事故件数]について、今後のまちづくりのためにも、交通管理者から詳細なデータ提供を受けられるとよいと意見があった。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実施過程の評価は適切であると確認された。
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・効果要因発現は適切であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にわかりやすく公表されたことが確認されたが、市民からの意見がなかったため公表の仕方を工夫したほうが良いと意見があった。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・意見なし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロック等のバリアフリー機能の検討の際に当事者と一緒に検討していることなど、エリアマネジメントや障がい者支援活動が行政等と共通のプラットフォーム上で協力していることを確認した。今後とも関係者が課題やまちづくり戦略等の共有化を図り、都市再生整備を進めてほしいと意見があった。
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・意見なし。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・意見なし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対策について課題を明確にし、今後の方針について関係者間で協議することが望ましいと意見があった。 	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---